

# 久留米藩士入植130周年記念 石橋美術館所蔵名品展 —海の幸— 青木繁と久留米の美術



古賀春江《素朴な月夜》  
1929(昭和4)年作  
石橋財団石橋美術館蔵

1978(明治11)年11月11日、国営安積開墾の第一陣として、旧久留米藩士が郡山・安積地方に入植しました。安積開拓には、9藩の士族が入植しましたが、中でも旧久留米藩士は141世帯585人と最も多かったのです。入植した藩士は刀を鋏にもちかえて、安積の地の開墾を始め、郡山市の近代化の基礎となった安積野の開拓に大きな役割を果たしたのです。これが縁となり、1975(昭和50)年8月には、福岡県久留米市と郡山市とは姉妹都市の提携が行なわれ、郡山市立

美術館では今年まで「青木繁記念大賞公募展」を開催していました。

そこで2008(平成20)年は、旧久留米藩士族の入植130周年にあたりますので、それを記念して当館では、久留米市の文化を象徴する石橋美術館の所蔵名品展を開催します。

石橋美術館所蔵作品の基礎となっている石橋コレクションは、株式会社プリヂストンの創業者、石橋正二郎(1889~1976)が1930(昭和5)年以来長年にわたり収集した珠玉の美術品です。その優れた収蔵品の数々を一般に公開する目的で、1952(昭和27)年、東京にプリヂストン美術館が、1956(昭和31)年には石橋正二郎の故郷である久留米市に石橋美術館が建設されました。この2館は我が国の美術振興におおいに貢献しています。

特に久留米市は、青木繁、坂本繁二郎、古賀春江という、日本近代美術を語る上で欠かすことのできない3人の巨匠を輩出しました。そこで、石橋コレクションの中から、青木繁の《海の幸》(重要文化財)をはじめとする上記3人の画家たちを中心に、久留米市を代表する作家たちの作品を加えた72点により、郡山市民に久留米市近代美術の粋を紹介します。さらに「層久留米市と郡山市との縁を深めること」を目的として、展覧会を開きます。なお、これにあわせて石橋美術館では、当館の「イギリス美術コレクション」などを展示する「ノスタルジア11.11」郡山市立美術館の「イギリス美術」展が開催されています(報告は6頁)。

実は、こういった石橋美術館のコレクションの中には、当館が誇るイギリス美術コレクションに関連するものが多くあります。坂本繁二郎は、師の森三美からイギリス美術を学び、その初期の作品にはコンスタブルやターナーの影響がありあり